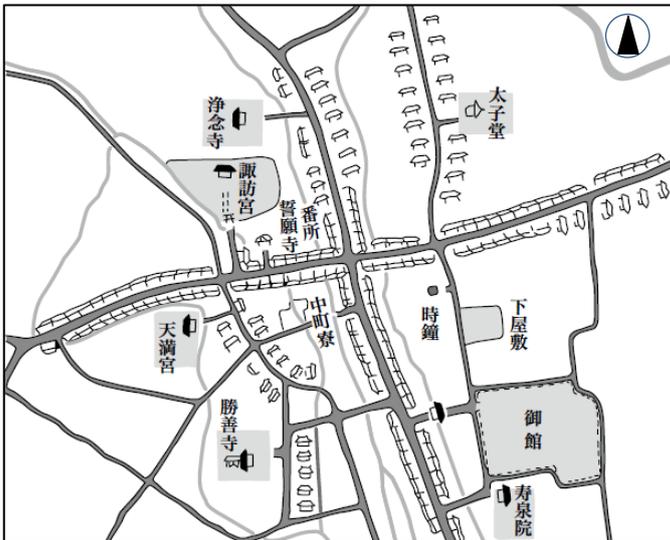


須坂町の 並みり だより

今回は、須坂町の歴史・重伝建に向けたスケジュール・魅力紹介「ぼたもち石」をお伝えします。

■須坂町※の歴史～江戸末期までの町の成立ちなど～



◆須坂町絵図より：寛政4年（1792年）

須坂町の礎は、須田氏により築かれたと言われてい
ます。須田氏は中世に小山周辺に勢力を持っていた地方
武士団であり、臥竜山の北側でたびたび氾濫をしてい
た市川（現：百々川）を、南側へ大きく川筋を変え、人々
が生活できる土地にしたとされています。

江戸時代の須坂町は藩
主堀家が現在の奥田神社
一帯に陣屋を置いたこと
により、藩政の中心地とし
て、また大笹街道（北信濃
と上州を経て江戸へと通じ



◆街道を示す石柱（中町交差点）

る)、谷街道（稲荷山宿と越後を結び）、草津道（高山村経由で草津へ通じる）
が交差する交通の要衝・物資の集散地として多くの商人や職人が居住し、商
業的にも発展しました。街道などを通り、塩、魚、砂糖、金物、茶などが須
坂に運び込まれ、須坂からは煙草、木綿などの特産物や、裏川用水にかけら
れた水車を利用し搾油した菜種油などが上州側に運ばれました。また江戸末
期以降には繭や生糸も須坂から横浜まで運ばれていました。

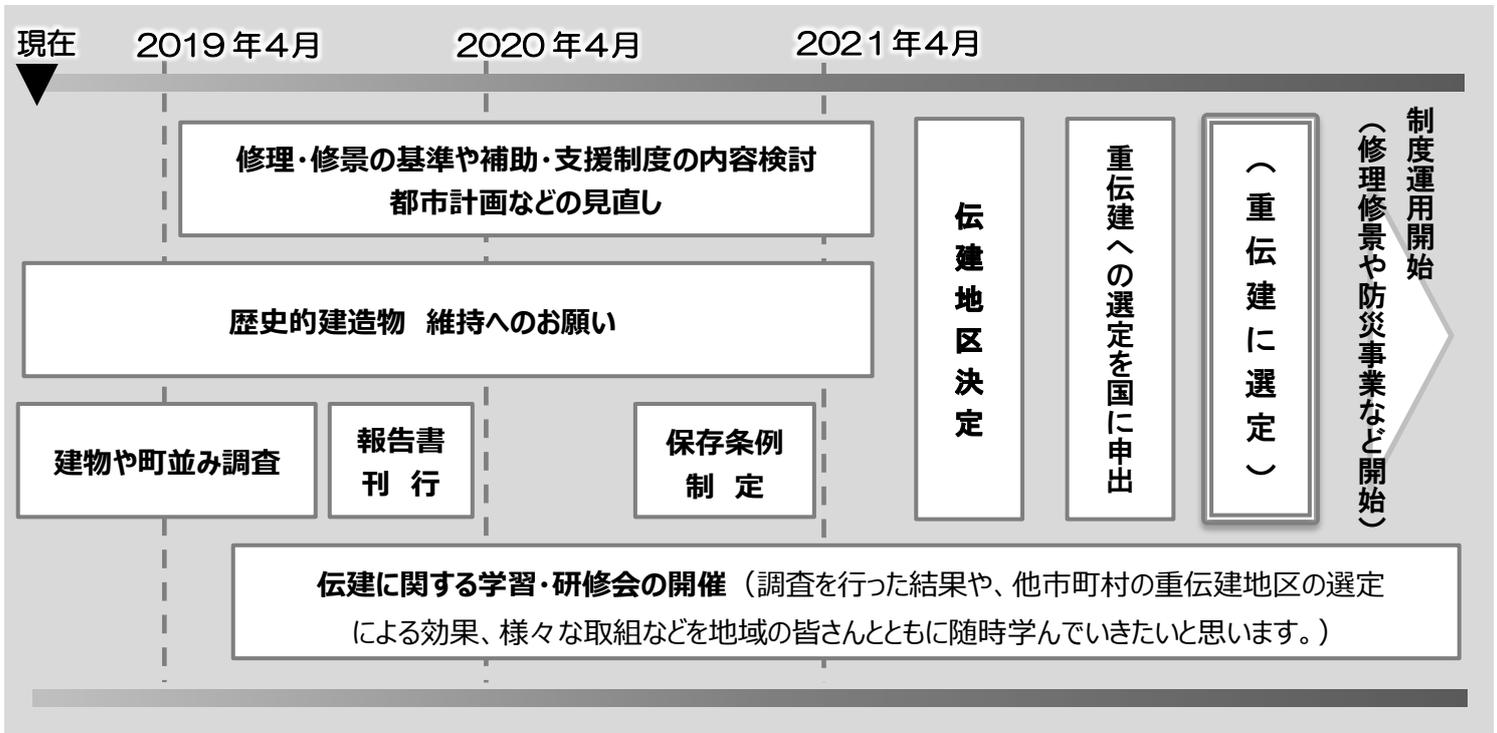
一方で、1778年（安永7年）に、現在の中町周辺一帯が大火に遭い、
150件もの建物が焼失しました。こうした幾度かの火災や地震を契機に、
防耐火建築である土蔵造りが広がっていきました。

製糸業でさらなる発展を遂げた明治時代以降の歴史については、次号以降で取り上げていきます。

■重伝建に向けた今後のスケジュールは？

重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定されるためには、市が歴史的な建物の特徴や間取りなどの調査を踏まえて伝建地区を決定し、そのうえで国にとって価値が高いと認められる必要があります。合わせて、地域の皆さんの町並みやまちづくりへのご理解が不可欠です。

現在、地域住民の皆さんのご協力をいただきながら建物や町並み調査を進めており、平成31年度（2019年度）末に報告書としてまとめる予定です。



■魅力紹介「ぼたもち石積み」

町中を歩いていると、ぼたもちのような丸々とした石によって組まれた石積みを見かけます。須坂の人々は、美しく、温かく見えるこの石を「ぼたもち石」と呼んでいます。



◆須坂クラシック美術館の「ぼたもち石積み」

自然に積まれているように見えますが、石ひとつを積み上げるのに1日かかると言われるほど、高度な職工技術と多くの時間を要することから、須坂の繁栄を示すものです。

須坂クラシック美術館や県宝旧小田切家住宅をはじめ、町中のあちらこちらで見かけることができます。探してみたいはいかがでしょうか。

今年もすでに1ヶ月が経過しました。新年の目標はいかがでしょう。何かを始めるにも、1歩踏み出すことが大切です。

建物・町並みにも最初の1歩があり、今も歩み続けています。歩みが止まらないよう、地道に確実に歩んできたいと考えています。

編集・発行

須坂市社会共創部生涯学習スポーツ課

☎026-248-9027

まちづくり推進部まちづくり課

☎026-248-9007